

## 第 57 話<リーダー>の要約と参考資料

### 第 57 話<リーダー>の要約

江戸後期、土路久組を統率する弁指（副庄屋格）は「母屋」の家系からでていました。弁指は村人が畏敬するリーダー。明治中期、母屋が養子をとってから、リーダーは「南」の佐藤三蔵さんに。和合会が創設されてから 40 年間、会長をつとめた決断と実行の人でした。

### 第 57 話<リーダー>の参考資料

#### 5 7 - 1 明治初期と大正中期の土路久の状況

明治 4 (1871) 年 3 月「五人組帳面惣寄控 岩戸村」より

土路久

鉄砲 4 挺 男牛 1 疋 女牛 20 疋 男馬 2 疋 女馬 43 疋

岩戸（五カ村、土路久、永野内、上村、東岸寺、野方野）合

鉄砲 82 挺 男牛 36 疋 女牛 89 疋 男馬 16 疋 女馬 512 疋

土路久組

4 組

一、竈 27 軒 人数 187 人 内 男 106 人 女 81 人

外ニ壱軒 弁指家内 7 人 内 男 5 人 女 2 人

ノ 28 軒 人数 194 人 内 男 111 人 女 83 人

岩戸 惣竈数 319 軒（内 社人 1 軒 寺 1 軒 出張所 1 軒 右雇 1 軒 弁指 6 軒

小箱 (?) 1 軒 百姓 307 軒)

\*署名者は、岩戸村庄屋土持輝太郎と弁指 6 人。弁指の中に佐藤雅市の名前がある

池田牧然「岩戸村土路久放牧場及土路久亜砒酸鉍山ヲ見テ」より（1925 年）

土路久ハ一帯ニ草カ豊富テアルカラ明治 33, 34 年頃ハ戸数 33 戸ニ対シ馬ガ 85, 86 頭、牛ガ 62, 63 頭モ居タノガ、今ハ戸数 44 戸ニ対シ馬ガ僅ニ 32 頭、牛ガ 55 頭ニ減ッタ。

#### 5 7 - 2 江戸から明治初期の岩戸村の組制度

明治 24 年岩戸山裏田成開発意見書（藤寺非宝「岩戸村田成開発史」所収）の要約

- ・岩戸村を 4 組に分けていた。元和年間に差尾組、土路久組、永野内組、野方野組。
- ・弁指 4 人いて、その下に組頭を 5 戸に 1 人ずつ。

- ・享保年間に、山野を隔てるのは不便として、差尾組を五ヶ村組と上村組、永野内組を東岸寺組と永野内組に分けた。
- ・弁指 6 人、5 戸に 1 人の組頭の制度が、安政年間迄持続した。
- ・官の達しで、組頭は 10 戸に 1 人となった。弁指は 6 組、6 人を据え置いた。
- ・明治 5 年 4 月に、庄屋を廃止し、戸長・副戸長と改称した。
- ・明治 22 年 6 月、町村制が実施されると、戸長を村長と改め、副戸長を助役、弁指を門世話人と呼ぶようにした。
- ・五ヶ村組を五ヶ村門と寺尾野門、上村組を上村門と立宿門、東岸寺組を東岸寺門と黒原門、永野内組を上永野内門と下永野内門、野方野組を野方野門と大平門にわけて、土呂久門も加えて計 11 門とし、11 人の門世話人を置いた。

#### 延岡藩の村支配の仕組み

「宮崎県史 通史編 近世上」P222

延岡藩領の支配機構であるが、城下町延岡（延岡市）は町奉行一別当一乙名、郷村は郡奉行一代官一大庄屋一庄屋一（弁指）一組頭の系列となる。

#### 弁指の言葉の由来

西川功「旭大神文書と丹部田部氏の由緒について」P12

弁済使（べんざいしともいう）とは、荘園や国の役所領で、税として納められた米の清算や分別をする役人のことで、後世徳川時代には、庄屋の下の区長に当る職を弁指（べんざいし）というが、弁済使の変化である。

小寺鉄之助「宮崎県百姓一揆資料」の中で、弁指を副庄屋格と説明している。

#### 5 7 - 3 弁指の家系（「母屋」の家系が継いでいた）

##### 江戸後期の弁指

佐藤要右衛門 文政 14（1817）年に弁指勤務の功績で苗字御免

要右衛門の倅 佐藤近市

近市の倅 佐藤初蔵 嘉永 5（1852）年～

初蔵の倅 佐藤雅市 文久 4（1864）年～

##### 「母屋」の家系

要右衛門（天保 12 年 1 月 3 日=67 歳）—近市（嘉永 5 年 5 月 20 日）—雅市（明治 35 年 2 月 15 日=60 歳）—住蔵（昭和 18 年 3 月 13 日=83 歳）—一蔵（昭和 38 年 1 月 22 日=77 歳）

\*住蔵には男の子がなかった。「南」の三蔵の弟である一蔵を養子にもらった。

佐藤実雄さんが話す「母屋と庄屋（弁指）」（1979年12月20日聴取）

母屋は土呂久の庄屋（弁指の誤り）だったらしい。村を回って、晩遅く帰ってきた。寒くなったので、十手を首に打たてて帰ってきた。そのまま囲炉裏の火を吹きよった。陰から庄屋を狙ちよった奴が、刀を振ったら、十手にあたって、命拾いした。

#### 57-4 「南」の家系

南の家系

市蔵（嘉永2年6月10日死亡）—治作（慶応4年7月14日死亡）—数蔵（明治25年1月22日死亡=70歳）—十三郎（昭和15年4月17日死亡=88歳）—三蔵（昭和14年3月6日死亡=59歳）

#### 57-5 佐藤三蔵さんについて

「南」の墓碑

佐藤三蔵（徹の父）

氏ハ明治14年12月10日十三郎ノ長男ニ生レ、22歳ノ時其家ヲ継ク。明治40年少壯27歳ニシテ郷党ノ属望ヲ担イ村会議員ニ選バレ、5期間在任22年ニ及ブ、又永年ニ亘リ学務委員、耕地整理組合評議員、統計産業調査委員及ビ土呂久和合会長ノ要職ニ延15年ノ長期ニ亘リ尽カシ、村政ノ振興及至地方開発ニ貢献スル所多シ。惜イ哉、昭和14年3月6日59歳ヲ一期トシテ遂ニ逝ケリ。

昭和14年3月6日死

建之 佐藤一男

佐藤正四さんの話（聴取日不明）

「南」は金上げ士族だった。帯刀を許されていた。お取り越しに行くと、刀を出してきて見せよった。刀を5本か6本見せよった。終戦のとき、腐らして役立たずになった。

佐藤数夫さんの話（1978年1月28日聴取）

25歳から村会議員をしとった。よだんなしゃべりをする人じゃなかった。黙って聞いてちよって、「こうがよわねえの」ちいうと、すぐ決まりよった。

佐藤仲治さんの話（1978年11月19日聴取）

前から仲買などやって、稼いで二号をつくって岩戸に出てしまった。あとは息子の徹に

まかせた。家が索道の下になるので、移転費をもらって移転して、今の家に移った。岩戸では製材所をやっていた。この人が、鉾山に必要な建築用資材を、官山から伐り出して、製材しては鉾山に売っていた。

佐藤仲治さんの話（1978年12月1日聴取）

実行力あり、決断力の強い人。やり手。鉾山が盛んになってから、岩戸の早川橋に製材所かまえて、大々的にやりよった。

高千穂町役場保存資料より

佐藤三蔵は、明治40（1907）年5月24日より昭和8（1933）年5月22日まで、6期26年間にわたり村会議員をつとめた。1期目は6年、あとの5期は4年の任期。